

入選 ぼくと六丁目の人たち

五年 鈴木智大

ぼくは休日にいつも、須郷台公園で遊んでいます。公園にきている友達と、よくサッカーなどをしています。友達と仲良く遊んでいると、とても楽しいです。公園で遊んでいると、いつも佐野さんという人に会います。佐野さんはいつも、ぼくたちにいつもやさしく声をかけてくれます。ぼくは佐野さんに、いつもあいさつをしています。公園に行くようになってからは、地域の行事に参加するようになりました。佐野さんや、いつも朝にあいさつをしているおじいさんにさそわれて、須郷台公園のまちつき大会などのいろいろな行事に参加しました。六丁目をそうじする行事で、落ち葉をそうじしたりしたこともあります。このように、須郷台公園に行くようになってからは、自分が少し変わったと思います。また、朝に登校する時、と中でいつもおじいさんにあいさつをしています。

「おはようございます」
すると、おじいさんは、

「気をつけていつてらっしゃい。」

「いつてくれます。そして、ぼくは、
「いつてきます。」

といいます。最近、おじいさんはうで時計をみて時間を教えてくれます。雨がふっていないければ、いつも同じ場所に立って、登校するぼくたちを見守ってくれます。このように、ぼくは、六丁

目の人にお世話になってきました。これからは、緑園の町はぼくたちが受けついでいきます。これからも、地域の行事に積極的に参加したいし、地域の行事に参加することで、地域を少しでもり上げたいです。

また、地域の方にはいつもお世話になってるので、これからもしっかりあいさつしたいです。そして、大きくなったら、佐野さんやおじいさんのように、他の人にやさしく接することができて、地域のためにがんばれて、地域をもり上げていけるような人になっていきたいです。

入選 「楽しいっぱい緑園の街」

五年 西田夏帆

私が住む地域は毎年、地域連合運動会が行なわれます。その運動会は、緑園の一丁目から七丁目までの全部で七つの地域が集まってやる運動会です。その運動会に私は参加して思ったことが五つあります。一つ目は、地域の方が司会や、審判などを決めて参加者を進行させてとてもがんばっている気持ち伝わってきたことと感謝したこと。地域の司会の方が参加者を、各きようぎごとよりあげてがんばっていたからです。審判の人は、走ってくる人たちをみて順位をきめていっしょうけんめいやっていたからです。二つ目は、地域の役員さんが商品わたしや会場の準備、かたづけなどをいっしょうけんめいやっていたことです。役員さん

は、きょうぎをみながらも、商品わたしや運動会が終わる近い時間になると自分たちから進んでかたづけをしていたからです。

三つ目は、テントの前ではたふりをしていた子供たちです。はたをふっていた子供たちは、自分の各丁目をいっしょけんめい応えんしていたので、同じ小学生でも一つ一つに力を入れて一日がんばっていたからです。四つ目は、西小の校長先生や、東小の校長先生が丁目を気にしないで応えんしてくれていたことです。校長先生は学校の仕事もいそがしい中、連合運動会にきてくれてとても応えんをきいて力がわいてきたからです。五つ目は、お母さんやお父さんが私や友達にやさしく話してくれたことです。お母さんやお父さんは、私が競技中に転んでしまい、競技が終わったらすぐに「だいじょうぶ」と声をかけてもらったことと、お母さんやお父さんは、声をかける時はやさしく、応えんする時はいっしょけんめい応えんする、というメリハリをつける行動をたくさんしていたので私は見習いたいと思いました。

私はこの運動会を終えて地域の方々は一つ一つのことをいっしょけんめいやることや、自分たちから進んで準備やかたづけなどをやることを私は見習ってこれからの生活に生かしていきたい、そして未来へも生かしていきたいと思います。

入選 「すてきな緑園と地域の人」

五年 土屋仁彦

ぼくが緑園の中で素てきたと思うのは、地域の人です。その中でも、六丁目の須郷台公園を管理している佐野さんと今は会っていないけどベルデュールのパン屋さんのうら側でいつもあいさつをしている人などがいます。

ぼくが公園に遊びに行くと、佐野さんは、公園にいつもいて、必ず声をかけてくれます。そのおかげで、元氣が出て毎日楽しく遊んでいます。七月の下じゅんあたりから、十月くらいまで、須郷台公園が工事をしていました。サッカーなどの遊びができなくてとなりのゆう歩道で遊んでいました。その時きのさんが後、もう少しだからねとはげましてくれたり、ベンチを設置してくれたりしてうれしかったです。そのおかげで、工事が終わった時には、感動しました。もう一人ぼくが三年くらいのころまで、あいさつをしていた人がいます。その人は、いつもパン屋さんのうらがわに立ってあいさつをしています。そのおかげで、毎日元氣が出ていました。その人は、とってもやさしく、二年前の花プロジェクトの司会もやっていました。他にも、学校の災害時の宿泊するイベントでは、学校の先生ではなく、地域の人がいけると計画を立てて、楽しいゲームなどをして、楽しかったです。これからも、地域の人と一緒にこの素てきな緑園をもっともっと、もり上げていきたいです。

ぼくは、こんなに素てきな緑園と、思いやりのある地域の人た

ちに育てられたと考えると、すごいほこりに思います。地域の人たちの後をつぐぼくたちが緑園をより上げ、さのさんみたいに思いやりのある、みんなから知られて、気軽に話しかけてもらえるような人になりたいです。さのさんやぼくたちを支えてくれた、地域の人たち、五年間ありがとうございました。そしてこれから、公園に遊びに行くので、よろしくおねがいします。

入選 ほつとする町緑園都市

五年 中村理奈子

母が中学生の時は緑園の町は、まだ山でブルドーザーが整地をしていたそうです。駅の改札が出る時は、切符を改札の所にポンと置いていったとも聞きました。

三十年余りたった今は、駅は自動改札、公園も多く各家庭の玄関には、きれいにお花が植えられ名前通りのそのの町になっています。何もない所からこんなに住みやすい町になったのは色んな人の力があつたに違いないと思います。そしてこのきれいな町並を保つためにも、日々、緑園に住んでいる人、それぞれがきれいで住みやすくしようと思がけているためだと思います。大きい通りには、大きい街路樹が植えられていて秋には落葉となり道路に沢山あるはずが、学校に行く朝も帰りもきれいな道路を通ることができます。何気なく歩くだけではなく、色々な人の手がかかっているんだなと思いながら有り難く通学路を通ろ

うと思っています。そして季節ごとにお花の香りを感じられ、季節の移り変わりを知る事ができるのもとても幸せに感じます。先日、お散歩をしていた時にあけびを見つけました。めずらしい植物の発見も緑園ならではと思いました。

次に私は、外出先から電車で帰ってくる時、緑園都市駅が近くとほつとします。どんなにつかれて帰ってきてても、帰りの坂道は元気に登ることが出来ます。これから先、何十年後かにこの町から出ることがあっても生まれ育ちよく遊んでいるこの町には必ず戻って来たいと思います。

私が今できることは、良い思い出を作ることです。それは、地域の夏祭りや運動会の思い出や、ただふだんの公園での遊びの思い出、もちろん、小中学校生活での思い出も沢山作れます。心の中にその思い出の箱を作り、宝箱として保存しておきます。それを将来、家族やお友達と一緒に緑園の町でふり返ることができたらとてもうれしいと思います。